

その他 *Chironomus tentans* 成長阻害；10日間 EC<sub>50</sub> 87.2 µg/L  
 アセスメント係数：100 [3生物群（藻類、甲殻類、魚類）及びその他の生物について信頼  
 できる知見が得られたため]

これらの毒性値のうちその他の生物を除いた最も小さい値（甲殻類の 3,340 µg/L）をアセ  
 スメント係数 100 で除することにより、急性毒性値に基づく PNEC 値 33 µg/L が得られた。な  
 お、その他生物を採用した場合、急性毒性値に基づく PNEC の参考値は 0.87 µg/L となる。

**慢性毒性値**

藻類	<i>Pseudokirchneriella subcapitata</i>	生長阻害;96時間 NOEC	5,300 µg/L
甲殻類	<i>Americamysis bahia</i>	繁殖阻害;35日間 NOEC	232 µg/L
魚類	<i>Pimephales promelas</i>	死亡；47日間 NOEC	278 µg/L
その他	<i>Chironomus tentans</i>	羽化阻害 ；最長 63 日間 NOEC	<2.3 µg/L

アセスメント係数：10 [3生物群（藻類、甲殻類、魚類）及びその他の生物について信頼で  
 きる知見が得られたため]

これらの毒性値のうちその他の生物を除いた最も小さい値（甲殻類の 232 µg/L）をアセ  
 スメント係数 10 で除することにより、慢性毒性値に基づく PNEC 値 23 µg/L が得られた。なお、  
 その他生物を採用した場合、慢性毒性値に基づく PNEC の参考値は 0.23µg/L 未満となる。

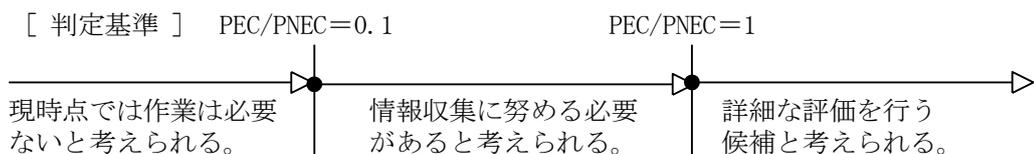
本物質の PNEC としては甲殻類の慢性毒性値から得られた 23 µg/L を採用する。なお、そ  
 の他の生物を用いた場合の PNEC の参考値は、0.23 µg/L 未満となる。

**(3) 生態リスクの初期評価結果**

表 4.2 生態リスクの初期評価結果

水質	平均濃度	最大濃度 (PEC)	PNEC	PEC/ PNEC 比
公共用水域・淡水	0.0027 µg/L程度 (2005) [限られた地域で0.67 µg/L程度 の報告がある (2006)]	11 µg/L程度 (2006)	23 (<0.23) µg/L	0.5 (>48)
公共用水域・海水	0.0019 µg/L程度 (2003)	0.028 µg/L程度 (2003)		0.001 (>0.1)

- 注：1) 水質中濃度の ( ) 内の数値は測定年度を示す  
 2) 公共用水域・淡水は、河川河口域を含む  
 3) PNEC、PEC/PNEC 比の ( ) 内の数値はその他の生物の毒性値を用いた場合



本物質の公共用水域における濃度は、平均濃度で見ると淡水域では 0.0027 µg/L 程度、海水

域では 0.0019  $\mu\text{g/L}$  程度であった。安全側の評価値として設定された予測環境中濃度（PEC）は、淡水域で 11  $\mu\text{g/L}$  程度、海水域は 0.028  $\mu\text{g/L}$  程度であった。

予測環境中濃度（PEC）と予測無影響濃度（PNEC）の比は、淡水域では 0.5、海水域では 0.001 となるため、情報収集に努める必要があると考えられる。なお、公共用水域の淡水域で PEC 設定根拠とした調査では、全 9 地点中 5 地点で PEC/PNEC 比が 0.1 以上であった。

本物質については、環境中への排出を抑制する取り組みが行われているところもあるが、これまでに実施された調査における検出状況等を踏まえると、環境中濃度の推移を広く把握する必要があると考えられる。